

平成 21 年度 特定領域研究「統合脳」夏のワークショップ 合同班会議、サテライトシンポジウム

日時： 平成 21 年 8 月 9 日（日）～ 12 日（水）

8 月 9 日（日）	15:00-18:00	サテライトシンポジウム[脳と心のメカニズム]
	20:00-22:00	ポスターセッション[脳と心のメカニズム]
8 月 10 日（月）	09:00-12:05	第 1 領域 班会議①
	09:00-16:50	第 2 領域 班会議
	09:00-17:00	第 5 領域 班会議
	19:00-21:30	ポスターセッション [第 1,2,5 領域]
8 月 11 日（火）	10:00-16:40	全体ワークショップ
	18:30-20:30	懇親会
8 月 12 日（水）	09:00-12:20	第 1 領域 班会議②
	09:00-17:50	第 3、4 領域 合同班会議
	19:00-21:30	ポスターセッション [第 3,4 領域]

場所： 北海道厚生年金会館（ウエルシティ札幌）
札幌市教育文化会館（全体ワークショップのみ）

主催： 文部科学省特定領域研究「統合脳」5 領域

問い合わせ先：

「統合脳」実行委員会 小松英彦（生理学研究所）komatsu@nips.ac.jp

「統合脳」事務局 高田昌彦（京都大学霊長類研究所）takada@pri.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.togo-nou.nips.ac.jp/>

統合脳班会議と研究成果報告についてのガイドラインをこの抄録集の巻末に掲載いたしますので、参加者は御一読下さい。

またガイドラインにもありますように、班会議での写真撮影は禁止されております。

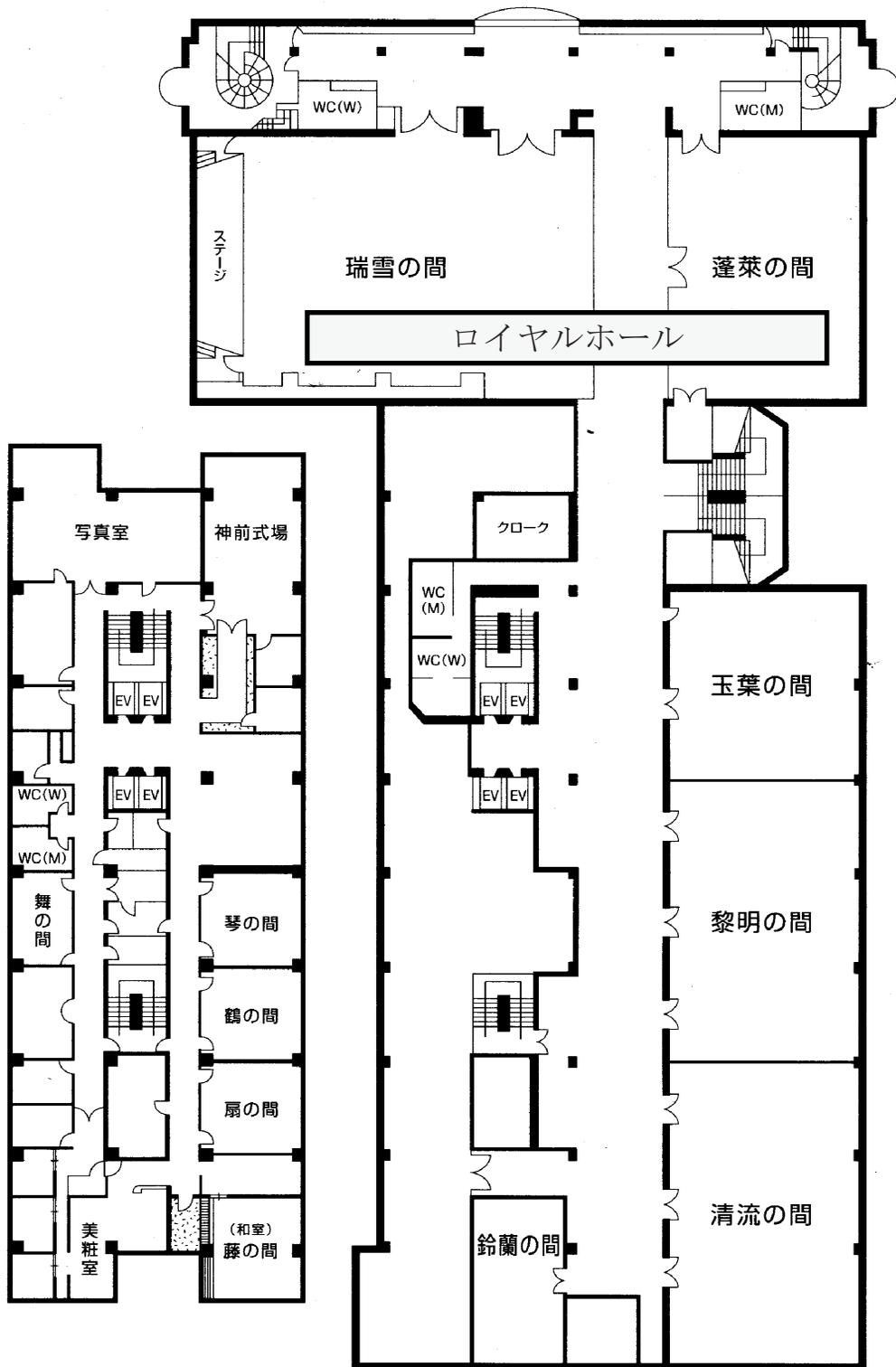
平成 21 年度「統合脳」夏のワークショップ会場案内

8月 9日 (日)	15:00-18:00	サテライトシンポジウム「脳と心のメカニズム」	瑞雪
	20:00-22:00	「脳と心のメカニズム」ポスターセッション	玉葉
8月 10日 (月)	09:00-12:05	第1領域 班会議①	清流
	09:00-16:50	第2領域 班会議	蓬莱
	09:00-17:00	第5領域 班会議	瑞雪
	19:00-21:30	第1領域 ポスターセッション	黎明
		第2領域 ポスターセッション	黎明
		第5領域 ポスターセッション	玉葉
8月 11日 (火)	10:00-16:40	全体ワークショップ	教育文化会館大ホール
	18:30-20:30	懇親会	ロイヤルホール (厚生年金会館)
8月 12日 (水)	09:00-12:20	第1領域 班会議②	清流
	09:00-17:50	第3、4領域 合同班会議	瑞雪
	19:00-21:30	第3領域 ポスターセッション	玉葉
		第4領域 ポスターセッション	黎明

※ 支援班のポスターセッションは8月10日(月)～12日(水)の間、ホール壁で掲示されます。



厚生年金会館会場見取り図



4階

3階

8月9日(日)

サテライトシンポジウム

脳と心のメカニズム 会場：瑞雪

15:00 ~ 18:00

ポスターセッション

脳と心のメカニズム 会場：玉葉

20:00 ~ 22:00

8月9日(日) 15:00-18:00 サテライトシンポジウム

「言語とコミュニケーション」

Language and Communication

企画：第2領域、脳と心のメカニズム

座長： 北澤 茂 (順天堂大学)

15:00-15:50 酒井 邦嘉 (東京大学大学院総合文化研究科 関連基礎科学系)

The neural basis of human language

座長： 入来 篤史 (理化学研究所)

16:00-16:50 Asif Ghazanfar (Princeton University)

The evolution of vocal communication through coupled oscillations.

座長： 入来 篤史 (理化学研究所)

17:00-17:50 岡ノ谷 一夫 (理化学研究所、JST/ERATO 岡ノ谷情報プロジェクト)

Neural correlates of finite-state song syntax in Bengalese finches

8月9日(日) 夜 ポスターセッション 第1部

脳と心のメカニズム

- bm-01. Tomofumi Oga(1), Tsuguhisa Okamoto (1), Guy N. Elston (2,3), Ichiro Fujita (1,3)
1)School of Frontier Biosciences, Osaka University 2)Centre for Cognitive Neuroscience, Brisbane 3)CREST, Japan Science and Technology
“Structural variation of dendritic spines in the temporal lobe as a device for increasing visual memory capacity”
- bm-02. Tsuguhisa Okamoto (1), Tomofumi Oga(1), Guy N. Elston (2,3), Ichiro Fujita (1,3)
1)School of Frontier Biosciences, Osaka University 2)Centre for Cognitive Neuroscience, Brisbane 3)CREST, Japan Science and Technology
“Morphological development of primary sensory cortices: comparison of visual and auditory cortex”

- bm-03. 渡辺由美子、梶原利一、高島一郎（産業技術総合研究所 脳神経情報研究部門）
「腹側被蓋野の電気刺激によるラット前頭前野での応答
ー膜電位イメージングを用いた解析ー」
- bm-04. 松浦清人、三浦健一郎、青木佑紀、河野憲二（京都大学医学研究科 認知行動脳科学）
「色度正弦波縞と輝度正弦波縞の競合する動きで生じるサルの追従眼球運動」
- bm-05. Koji Toda(1,2), Takashi Mizuhiki(1), Yasuko Sugase-Miyamoto(3), Kiyonori Inaba(1),
Shigeru Ozaki(1), Barry J Richmond(4), Munetaka Shidara(1, 3)
1)University of Tsukuba 2) JSPS 3) AIST 4) NIMH / NIH
“Neuronal signals in the rostral part of anterior cingulate cortex related to reward
proximity and amount”
- bm-06. 西川淳、岡ノ谷一夫（理研 BSI）
「ジュウシマツ脳神経核 HVC における聴覚刺激依存的な機能的結合」
- bm-07. Shigeru Kubota (1), Jonathan Rubin (2), Tatsuo Kitajima (3),
1) Dept. of Biomedical Information Engineering, Yamagata Univ 2) Dept. of Mathematics,
Univ Pittsburgh 3) Dept. of Bio-System Engineering, Yamagata Univ
“Cortical GABA inhibition and activity- and subunit-dependent desensitization of NMDA
receptors precisely regulate the LTP/LTD ratio in STDP”
- bm-08. Shigeru Kubota (1), Jonathan Rubin (2),
1)Dept. of Biomedical Information Engineering, Yamagata University 2)Dept. of
Mathematics, University of Pittsburgh
“A model for burst firing activity induced by cortical inputs in the subthalamic nucleus
neuron”
- bm-09. 時本楠緒子、岡ノ谷一夫（理化学研究所 脳科学総合研究センター 生物言語研究チーム）
“Novel sound production by operant technique in the degus (*Octodon degu*)”
- bm-10. 竹村浩昌（東京大院総合文化研究科、日本学術振興会）、村上郁也（東京大院総合文化研究科）
“Enhancement of horizontal visual motion detection by illusory vertical motion”
- bm-11. 山本愛実（玉川大学脳科学研究所、東京大学総合文化研究科）、松田哲也（玉川大学脳科学研
究所）、渡辺言也（玉川大学工学研究科）、坂上雅道（玉川大学脳科学研究所）
「利得損失予測の脳内情報処理に及ぼす知覚的曖昧性の影響」
- bm-12. 酒井雄希、成木迅、西田誠司、中前貴、福居顯二（京都府立医大医学研究科精神機能病態学）
“Altered functional connectivity in obsessive-compulsive disorder : A resting-state fMRI
study”
- bm-13. 西田知史、柴田智広、池田和司（奈良先端科学技術大学院大学）
“Attentional spreading during object tracking”
- bm-14. Hiroshige Takeichi (BSI, RIKEN), Atsuko Gunji (NIMH, NCNP), Hiroyuki Okada (Faculty
of Engineering, Tamagawa University), Takashi Omori (Faculty of Engineering,
Tamagawa University), Yuki Inoue (NIMH, NCNP), Makiko Kaga (NIMH, NCNP)

“A study of children's speech comprehension by discriminant analysis of EEG response to degraded speech sound”

- bm-15. 岩山幸治(1,2)、高橋康介(2,3,4)、渡邊克巳(2,3,5)、合原一幸(1,6)、鈴木秀幸(1,6)
1)東京大情報理工学系研究科 2)ほくりく健康創造クラスター 3)東京大先端科学技術研究センター 4)JSPS 特別研究員 5)ERATO 下條潜在脳機能プロジェクト 6)東京大生産技術研究所
“Detection of brain activity changes related to perceptual alternations”
- bm-16. 五味裕章(下條 ERATO、NTT-CS 研)、門田浩二(下條 ERATO)、麻生俊彦(京大医)、河野憲二(京大医)、福山秀直(京大医)
「異なるオンライン視覚運動制御のための神経基盤—頭頂疾患の影響による考察」
- bm-17. 青木俊太郎、塩崎博史、藤田一郎(大阪大学大学院生命機能研究科認知脳科学研究室)
“A computational model of spatial integration of binocular disparity underlying effects of a reference area on depth discrimination”
- bm-18. Makoto Ito (1), Doya Kenji (1,2)
1)Okinawa Institute of Science and Technology, Neural Computation Unit 2) ATR
“Differential representation of actions in the dorsal and the ventral striatum”
- bm-19. 熊野弘紀、宇賀貴紀(順天堂大学医学部生理学第一講座)
“Modeling and testing the receptive field of neurons in macaque MT”
- bm-20. Kazuhiro Goto (Kokoro Research Center, Kyoto University), Shigeru Watanabe (Keio University)
“Metamemory in jungle crows (*Corvus macrorhynchos*)”
- bm-21. Alan Fermin(1,2), Takehiko Yoshida (1,2), Saori Tanaka (3,4), Makoto Ito (2), Junichiro Yoshimoto (1,2), Kenji Doya (1,2,3)
1) NAIST, Nara, Japan 2) OIST, Neural Comp Unit, Okinawa, Japan 3) ATR Comp Neurosci Lab, Kyoto, Japan 4) Osaka Univ, Inst Social and Economic Res, Osaka, Japan
“Candidate neural networks for implementing model-free and model-based reinforcement learning strategies in the selection of sequential actions”
- bm-22. 寺尾将彦(東京大院総合文化研究科、NTT コミュニケーション科学基礎研究所)、加藤正晴(同志社大院文学研究科赤ちゃん学研究センター)、村上郁也(東京大院総合文化研究科)、西田眞也(NTT コミュニケーション科学基礎研究所)
「追跡眼球運動時の運動対応における非網膜的情報処理」
- bm-23. Jan Moren(Kyoto University), Tomohiro Shibata(NAIST), Kenji Doya(OIST)
“Circuit-level modeling of the SGI”
- bm-24. Adam Ponzi, Jeff Wickens(Neurobiology Research Unit, OIST)
“Input dependent dynamics in a striatal network model”
- bm-25. Masaharu Kinoshita(1,2), Charles D. Gilbert(1), Aniruddha Das(1,3)
1) Rockefeller University 2)生理学研究所 3)Columbia University
“Optical imaging of contextual interactions in V1 of the behaving monkey”

サテライトシンポジウム抄録

Language and Communication

「言語とコミュニケーション」

【企画：第2領域、脳と心のメカニズム】

8月9日（日）15:00 ～ 18:00

8月10日(月)

第1領域 班会議①

会場：清流

9:00 ～ 12:05

第2領域 班会議

会場：蓬莱

9:00 ～ 16:50

第5領域 班会議

会場：瑞雪

9:00 ～ 17:00

ポスターセッション

第1領域 会場：黎明

第2領域 会場：黎明

第5領域 会場：玉葉

19:00 ～ 21:30

8月10日(月)午前、午後 合同班会議 第1部

第1領域、第2領域、第5領域 3つの班会議が併行して行われます。(第1領域は午前のみ)

第1領域 「統合脳」

司会：高田昌彦

- 09:00-09:05 挨拶 丹治 順 代表
- 09:05-09:20 駒井 章治 (奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科)
「成熟個体脳における経験依存的神経可塑性現象の機構解明」
- 09:20-09:35 相原 威 (玉川大学・工学部・知能情報システム学科・生体情報工学)
「海馬神経回路網の情報統合メカニズム」
- 09:35-09:50 井本 敬二 (自然科学研究機構・生理学研究所・神経シグナル研究部門)
「大脳基底核神経回路の脳リズム発生・調節作用とその異常」
- 09:50-10:05 初山 俊彦 (東京慈恵会医科大学・医学部・薬理学講座)
「単ドーパミン性ニューロンからのドーパミン遊離機構の解析」
- 10:05-10:20 姜 時友 (理化学研究所・脳科学総合研究センター)
「大脳皮質神経回路の自己組織化における調整因子としての抑制回路の解明」
- 10:20-10:35 筒井 秀和 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・細胞機能)
「新規膜電位プローブの、細胞内局所ターゲット」
- 10:35-10:50 休憩
- 10:50-11:05 湯浅 茂樹 (国立精神・神経センター・神経研究所・微細構造研究部)
「遺伝子改変動物を用いた恐怖情動記憶消去の分子神経機構の解明」
- 11:05-11:20 本間 さと (北海道大学・大学院医学研究科・生理学講座)
「行動リズムを支配する時計機構：中枢覚醒と多振動体同期の分子機構」
- 11:20-11:35 久場 博司 (京都大学・大学院医学研究科)
「トリ層状核における両耳間時間差検出機構の解明」
- 11:35-11:50 ヘンシュ 貴雄 (理化学研究所・脳科学総合研究センター)
「総合的研究手法による大脳視覚野形成機構の解明」
- 11:50-12:05 藤井 直敬 (理化学研究所・脳科学総合研究センター)
「日本サル の階級依存的社会的脳機能の解明」

第2領域

「脳の高次機能システム」

09:00-09:10 挨拶 第2領域代表 木村 實

セッション1 座長 藤田 一郎

- 09:10-09:30 泰羅 雅登 (日本大学大学院総合科学研究科)
「外界を脳内に再構成する神経メカニズムー霊長類とヒトでの研究ー」
- 09:30-09:50 坂上 雅道 (玉川大学学術研究所)
「直感的思考の神経メカニズム」
- 09:50-10:10 深井 朋樹 (理化学研究所脳科学総合研究センター)
「神経回路の動態に基づく大脳皮質ー大脳基底核機能連関の計算論的理解」
- 10:10-10:30 川口 泰雄 (自然科学研究機構生理学研究所)
「大脳皮質回路の結合選択性」

セッション2 座長 北澤 茂

- 10:40-11:00 合原 一幸 (東京大学・生産技術研究所)
「異種情報の時空間コーディングと統合的処理に関する非線形システム論的研究」
- 11:00-11:20 田中 啓治 (理化学研究所脳科学総合研究センター)
「視覚的物体学習における下側頭葉皮質の役割とその機序」
- 11:20-11:40 小松 英彦 (自然科学研究機構生理学研究所)
「下側頭皮質における物体色認知のメカニズム」
- 11:40-12:00 藤田 一郎 (大阪大学大学院生命機能研究科)
「物体および奥行き知覚形成を支える神経基盤」
- 12:00-13:30 昼食

セッション3 座長 櫻井 武

- 13:30-13:50 福島 菊郎 (北海道大学大学院医学研究科)
「視標追跡運動における視標の予測値と頭部・眼球運動システムの統合と分解の脳内機構」
- 13:50-14:10 金子 武嗣 (京都大学大学院医学研究科)
「大脳皮質局所回路の解析のためのツール開発」
- 14:10-14:30 河野 憲二 (京都大学大学院医学研究科)
「視覚的眼球運動の随意的選択機構の研究」
- 14:30-14:50 北澤 茂 (順天堂大学医学部)
「小脳型運動制御に関する研究」

セッション4 座長 川口 泰雄

- 15:00-15:20 渡辺 正孝 (東京都神経科学総合研究所)
「動機づけ行動における報酬, 報酬期待関連脳部位間の機能的関係」
- 15:20-15:40 木村 實 (京都府立医科大学大学院医学研究科)
「大脳皮質基底核系のアクション・認知機能における動機づけの役割」
- 15:40-16:00 設楽 宗孝 (筑波大学大学院人間科学総合研究科)
「動機づけに基づく目標指向行動の脳内情報処理メカニズムの解明」
- 16:00-16:20 桜井 武 (金沢大学大学院医学系研究科)
「扁桃体機能、情動の制御に関わる新規神経ペプチドの検索とその生理作用の解明」
- 16:20-16:40 酒井 邦嘉 (東京大学大学院総合文化研究科)
「文法処理を中心とする言語の脳内メカニズムの解明」
- 16:40-16:50 挨拶 第2領域代表 木村 實

第5領域 「病態脳」

09:00-09:05 貫名代表挨拶

<A03 機能性精神疾患> (座長: 加藤忠史・西川徹)

09:05-09:40 西川 徹 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
「統合失調症の分子病態の解明」

09:40-10:15 加藤 忠史 (独立行政法人理化学研究所BSI)
「双極性障害における小胞体ストレス反応系の意義についての研究」

●ホットトピックス

10:15-10:40 内匠 透 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科)
「自閉症 CNV モデルとしての 15q11-13 重複マウス」

<A01 アルツハイマー病、パーキンソン病> (座長: 岩坪威・柳澤勝彦)

10:40-11:15 服部 信孝 (順天堂大学医学部)
「パーキンソン病における神経細胞死の機序解明とその防御」

11:15-11:50 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科)
「パーキンソン病発症の分子機構に関する研究」

11:50-13:10 昼 食 (総括班・計画班会議)

13:10-13:45 井原 康夫 (同志社大学生命医科学部)
「 γ セクレターゼの酵素学的性質の解明」

- 13:45-14:20 田平 武 (順天堂大学大学院)
「アルツハイマー病の免疫機序の解析と新しい治療法の開発」
- 14:20-14:55 柳澤 勝彦 (国立長寿医療センター研究所)
「Seed 仮説に基づくアルツハイマー病の病態解明ならびに治療薬開発」
- 14:55-15:15 休 憩

- <A02 ポリグルタミン病など> (座長：祖父江元・三浦正幸)
- 15:15-15:50 貫名 信行 (独立行政法人理化学研究所 B S I)
「神経変性における蛋白凝集機構の解析」
- 15:50-16:25 祖父江 元 (名古屋大学大学院医学系研究科)
「ポリグルタミン病の病態解明とそれに基づく治療法の開発」
- 16:25-17:00 三浦 正幸 (東京大学大学院薬学系研究科)
「神経変性シグナルの遺伝学的解析による疾患治療ターゲットの解明」
- 17:00-19:00 夕 食
- 19:00-21:00 ポスターセッション

8月10日(月)夜 ポスターセッション

第1,2,5領域のポスター発表が併行して行われます。

第1領域 「統合脳」

- 1-01 駒井 章治 (奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科)
「成熟個体脳における経験依存的神経可塑性現象の機構解明」
- 1-02 相原 威 (玉川大学・工学部・知能情報システム学科・生体情報工学)
「海馬神経回路網の情報統合メカニズム」
- 1-03 井本 敬二 (自然科学研究機構・生理学研究所)
「大脳基底核神経回路の脳リズム発生・調節作用とその異常」
- 1-04 初山 俊彦 (東京慈恵会医科大学・医学部・薬理学講座)
「単ドーパミン性ニューロンからのドーパミン遊離機構の解析」
- 1-05 姜 時友 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・脳回路機能理論研究チーム)
「大脳皮質神経回路の自己組織化における調整因子としての抑制回路の解明」
- 1-06 筒井 秀和 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・細胞機能)
「新規膜電位プローブの、細胞内局所ターゲット」

- 1-07 湯浅 茂樹 (国立精神・神経センター・神経研究所・微細構造研究部)
「遺伝子改変動物を用いた恐怖情動記憶消去の分子神経機構の解明」
- 1-08 本間 さと (北海道大学・大学院医学研究科・生理学講座)
「行動リズムを支配する時計機構：中枢覚醒と多振動体同期の分子機構」
- 1-09 久場 博司 (京都大学・大学院医学研究科・生命科学系キャリアパス形成ユニット)
「トリ層状核における両耳間時間差検出機構の解明」
- 1-10 ヘンシュ貴雄 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・神経回路発達研究チーム)
「総合的研究手法による大脳視覚野形成機構の解明」
- 1-11 藤井 直敬 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・適応知性研究チーム)
「日本サルの階級依存的社会的脳機能の解明」
- 1-12 星 英司 (玉川大学・脳科学研究所)
「認知と運動の統合過程における前頭葉内ネットワークの解明」
- 1-13 鮫島 和行 (玉川大学・脳科学研究所)
「大脳皮質－大脳基底核ループの認知的機能と意思決定」
- 1-14 磯田 昌岐 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・象徴概念発達研究チーム)
「多様な利他行動発現を制御する神経科学的メカニズムの解明」
- 1-15 磯村 宜和 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・脳回路機能理論研究チーム)
「運動発現を担う大脳皮質・基底核ニューロンの機能のおよび形態学的同定」
- 1-16 松元 健二 (玉川大学・脳科学研究所)
「ヒトにおける達成動機づけの脳内機構」
- 1-17 花川 隆 (国立精神・神経センター・神経研究所・疾病研究第七部・第一研究室)
「多元的イメージングによる系列操作の神経基盤の統合的解明」
- 1-18 肥後 範行 (産業技術総合研究所・脳神経情報研究部門・システム脳科学研究グループ)
「脳損傷後の機能回復：分子からシステムまでの統合的研究」
- 1-19 津田 一郎 (北海道大学・電子科学研究所・電子情報処理部門)
「エピソード記憶形成に関する海馬の数理モデルと実験的検証」
- 1-20 筒井 健一郎 (東北大学・大学院生命科学研究科)
「報酬と罰の統合的脳内表現に関する研究」
- 1-21 岡村 信行 (東北大学・大学院医学系研究科)
「PETを用いた分子イメージングによる神経変性疾患の病態解明」
- 1-22 銅谷 賢治 (沖縄科学技術研究基盤整備機構・大学院大学先行研究プロジェクト)
「モデルフリー・モデルベースの行動選択と強化学習の脳機構」
- 1-23 丹治 順 (玉川大学・脳科学研究所)
「生理学的、神経心理学的及び計算論的アプローチによる行動発現機構の統合的研究」

支援班

支援班のポスターは8月10日（月）～12日（水）の間、ホール壁で掲示されます。

- S-01 村山 繁雄 （東京都健康長寿医療センター）
「ゲノム研究リソースとしての高齢者ブレインバンクの構築」
- S-02 小林 和人 （福島県立医科大学）
「行動制御を媒介する神経回路研究のためのトランスジェニックラットの開発」
- S-03 虫明 元 （東北大学）
「インプラント用高機能集積化マルチ電極の開発」
- S-04 小島 比呂志 （玉川大学）
「高速多点刺激システムの開発および神経回路機能解析への応用」
- S-05 伊藤 浩之 （京都産業大学）
「マルチニューロンデータ解析支援環境の整備」
- S-06 山森 哲雄 （基礎生物学研究所）
「脳科学におけるプロテオミクス技術の開発と普及」
- S-07 岡戸 晴生 （東京都神経科学総合研究所）
「神経科学のためのウイルスベクターの開発」
- S-08 飯島 敏夫 （東北大学）
「標的神経回路選択的な光学的神経活動計測用分子プローブシステムと測定機器の開発」
- S-09 崎村 建司 （新潟大学脳研究所）
「C57BL/6 由来 ES 細胞を用いたコンディショナルノックアウトマウス」
- S-10 宮川 剛 （生理学研究所）
「大規模データ解析による遺伝子改変マウスの行動テストバッテリーの標準化・効率化」
- S-11 玉巻 伸章 （熊本大学）
「簡便に使える Single-cell microarray analysis 法の開発と普及」
- S-12 塚元葉子 （東京都神経科学総合研究所）
「神経回路機能解析のための細胞種特異的 Cre 発現トランスジェニックラットの開発」

第2領域 「脳の高次機能システム」

<計画班員>

< A 0 1 >

- 2-01 合原 一幸 （東京大学・生産技術研究所）
「異種情報の時空間コーディングと統合的処理に関する非線形システム論的研究」
- 2-02 藤田 一郎 （大阪大学・大学院生命機能研究科）
「物体および奥行き知覚形成を支える神経基盤」

2-03 小松 英彦 (自然科学研究機構・生理学研究所)

「下側頭皮質における物体色認知のメカニズム」

2-04 田中 啓治 (独立行政法人理化学研究所・脳科学総合研究センター)

「視覚的物体学習における下側頭葉皮質の役割とその機序」

<A02>

2-05 福島 菊郎 (北海道大学・大学院医学系研究科)

「視標追跡運動における視標の予測値と頭部・眼球運動システムの統合と分解の脳内機構」

2-06 金子 武嗣 (京都大学・大学院医学系研究科)

「大脳皮質の局所神経回路：特に運動野について」

2-07 河野 憲二 (京都大学・大学院医学系研究科)

「視覚的眼球運動の随意的選択機構の研究」

2-08 北澤 茂 (順天堂大学・医学部)

「小脳型運動制御に関する研究」

<A03>

2-09 設楽 宗孝 (筑波大学・大学院人間総合科学研究科)

「動機づけに基づく目標指向行動の脳内情報処理メカニズムの解明」

2-10 木村 實 (京都府立医科大学・大学院医学系研究科)

「大脳皮質基底核系のアクション・認知機能における動機づけの役割」

2-11 渡辺 正孝 ((財) 東京都医学研究機構)

「動機づけ行動における報酬，報酬期待関連脳部位間の機能的関係」

2-12 桜井 武 (金沢大学・大学院医学研究科)

「扁桃体機能、情動の制御に関わる新規神経ペプチドの検索とその生理作用の解明」

<A04>

2-13 坂上 雅道 (玉川大学・学術研究所・脳科学研究施設)

「推移的推論の神経メカニズム」

2-14 深井 朋樹 (独立行政法人理化学研究所・脳科学総合研究センター)

「神経回路の動態に基づく大脳皮質－大脳基底核機能連関の計算論的理解」

2-15 泰羅 雅登 (日本大学・大学院総合科学研究科)

「外界を脳内に再構成する神経メカニズム－霊長類とヒトでの研究－」

2-16 川口 泰雄 (自然科学研究機構・生理学研究所)

「大脳皮質回路の結合選択性」

<A05>

2-17 酒井 邦嘉 (東京大学・大学院総合文化研究科)

「文法処理を中心とする言語の脳内メカニズム」

<公募班員>

<A01>

2-18 大澤 五住 (大阪大学・大学院生命機能研究科)

「逆相関法および相互相関法による高次視覚機構の研究」

< A 0 2 >

- 2-19 森 悦朗 (東北大学・大学院医学研究科)
「行動機制の脳内機構に関する行動神経学的研究」
- 2-20 藤山 文乃 (京都大学・大学院医学研究科)
「線条体パッチ・マトリックスと入出力の解析」
- 2-21 河村 満、武田 景敏、鶴谷 奈津子、小早川 睦貴 (昭和大学・医学部)
「筋強直性ジストロフィーにおける表情認知と脳病変」
- 2-22 酒井 裕 (玉川大学・工学部)
「情報源に依存したマッチング行動」

< A 0 3 >

- 2-23 井樋 慶一 (東北大学・大学院情報科学研究科)
「ストレス・情動応答の性差と青斑核—ノルアドレナリン神経ターゲティング法による検討」
- 2-24 尾仲 達史 (自治医科大学・医学部)
「ストレス脆弱性の分子機構：PrRPニューロン仮説の検証」

< A 0 4 >

- 2-25 赤石 れい、坂井 克之 (東京大学・大学院医学系研究科)
「意思決定における不確実性は持続する神経回路により同じ選択を繰り返させる」
- 2-26 船橋 新太郎 (京都大学・こころの未来研究センター)
「メタ記憶に関わる前頭連合野神経機構の解析」

< A 0 5 >

- 2-27 鎌田 恭輔 (東京大学・大学院医学研究科)
「皮質電位計測による言語・記憶機能検出と空間—時間変動解析」

第5領域 「病態脳」

- 5-01 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科)
「パーキンソン病発症の分子機構に関する研究」
- 5-02 井原 康夫 (同志社大学生命医科学部)
「 γ セクレターゼの酵素学的性質の解明」
- 5-03 柳澤 勝彦 (国立長寿医療センター研究所)
「アルツハイマー病発症におけるエンドサイトーシス障害の意義
：GA β 形成の細胞生物学的基盤」
- 5-04 田平 武 (順天堂大学大学院)
「アルツハイマー病の免疫機序の解析と新しい治療法の開発」
- 5-05 服部 信孝 (順天堂大学医学部)
「パーキンソン病における神経細胞死の機序解明とその防御」

- 5-06 鈴木 利治 (北海道大学大学院薬学研究院)
「p3-A β の解析から考察する孤発性 AD 発症機構と診断への応用」
- 5-07 森島 真帆 (北海道大学大学院薬学研究院)
「タウのコンフォメーション変化のタウオパチーにおける意義」
- 5-08 有賀 寛芳 (北海道大学大学院薬学研究院)
「分泌 DJ-1 の神経変性疾患における役割」
- 5-09 富田 泰輔 (東京大学大学院薬学系研究科)
「創薬標的分子としての新規 γ セクレターゼ活性制御因子群の解析」
- 5-10 横田 隆徳 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
「内因性ベクターを用いた中枢神経系への新規 siRNA デリバリー方法の開発」
- 5-11 高橋 良輔 (京都大学大学院医学研究科)
「運動神経変性モデルとしての運動ニューロン特異的 26S プロテアソーム欠損マウスの解析」
- 5-12 橋本 康弘 (福島県立医科大学医学部)
「ベータ・セクレターゼ活性をモニターするためのバイオマーカーの検索」
- 5-13 富山 貴美 (大阪市立大学大学院医学研究科)
「A β によるコレステロール efflux の制御」
- 5-14 森 啓 (大阪市立大学大学院医学研究科)
「アルツハイマー病脳アミロイドイメージングの分子論的解明」
- 5-15 岩田 修永 (独立行政法人理化学研究所 B S I)
「ネプリライシンの活性低下による病理形成機構と活性制御機構の解析」
- 5-16 高島 明彦 (独立行政法人理化学研究所 B S I)
「タウオパチーモデルマウスへの薬剤投与の効果」
- 5-17 山口 芳樹 (独立行政法人理化学研究所 A S I)
「NMR 構造生物学に基づいた薬物相互作用の解析と神経変性疾患への治療応用」
- 5-18 樋口 真人 (独立行政法人放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター)
「アミロイドカスケードのキーププロセス可視化によるアルツハイマー病の診断・治療法開発」
- 5-19 村山 繁雄 (東京都老人総合研究所)
「高齢者タウオパチーの臨床分子病理学的研究—嗜銀顆粒性認知症」
- 5-20 道川 誠 (国立長寿医療センター研究所)
「脳内における新規 Ab クリアランス機構に関する研究—ApoE との関連から」
- 5-21 三浦 正幸 (東京大学大学院薬学系研究科)
「神経変性シグナルの遺伝学的解析による疾患治療ターゲットの解明」
- 5-22 祖父江 元 (名古屋大学大学院医学系研究科)
「ポリグルタミン病の病態解明とそれに基づく治療法の開発」
- 5-23 貫名 信行 (独立行政法人理化学研究所 B S I)
「疾患モデルマウスを用いたハンチントン病の病態進行に関与する転写因子の検索」
- 5-24 郭 伸 (東京大学大学院医学系研究科)
「ADAR2 賦活物質の in vitro スクリーニングシステムの開発：孤発性 ALS 治療薬の探索」

- 5-25 岡澤 均 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)
「ポリグルタミン病関連タンパク PQBP1 の認知記憶機能への関与」
- 5-26 西澤 正豊 (新潟大学脳研究所)
「劣性遺伝性脊髄小脳変性症の分子病態の解明」
- 5-27 久保田 広志 (秋田大学工学資源学部)
「筋萎縮性側索硬化症をおこす SOD1 変異体の凝集-脱凝集過程のダイナミクスと細胞毒性」
- 5-28 永井 義隆 (国立精神・神経センター 神経研究所)
「ポリグルタミン病の創薬を目指して-凝集阻害ペプチド QBP1 の化合物アナログ設計に向けた構造活性相関」
- 5-29 小松 雅明 (東京都臨床医学総合研究所先端研究センター)
「選択的オートファジーによる新しい転写制御機構」
- 5-30 山中 宏二 (独立行政法人理化学研究所 B S I)
「神経炎症の制御を標的とした筋萎縮性側索硬化症の治療法の開発」
- 5-31 長谷川 成人 (東京都精神医学総合研究所)
「神経変性疾患における異常蛋白質蓄積機構の解明」
- 5-32 西川 徹 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
「統合失調症の分子病態の解明」
- 5-33 加藤 忠史 (独立行政法人理化学研究所 B S I)
「躁うつ病モデルマウスにおける変異ミトコンドリア DNA 蓄積部位の探索」
- 5-34 福島 順子 (北海道大学医学部)
「広汎性発達障害の視線解析と機能画像による病態の研究」
- 5-35 富田 博秋 (東北大学大学院医学系研究科)
「精神疾患脳バンク構築のための基礎研究」
- 5-36 有波 忠雄 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)
「統合失調症とカナビノイド 2 型受容体遺伝子との関連」
- 5-37 笠井 清登 (東京大学大学院医学系研究科)
「東京大学精神科における統合失調症早期診断・治療開発研究 (IN-STEP)」
- 5-38 清野 泰 (福井大学高エネルギー医学研究センター)
「脳機能イメージングのための PET プローブ開発」
- 5-39 尾崎 紀夫 (名古屋大学大学院医学系研究科)
「14-3-3 ϵ を標的とした統合失調症と気分障害の分子病態解明」
- 5-40 宮川 剛 (藤田保健衛生大学総合医科学研究所)
「統合失調症のカルシニューリン仮説に基づいた統合失調症発症メカニズムの解明」
- 5-41 橋本 亮太 (大阪大学大学院医学系研究科)
「ヒトにおける脳表現型の分子機構の解明：ヒト脳表現型コンソーシアムについて」
- 5-42 森信 繁 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科)
「エピジェネティクスと大脳白質微細構造によるうつ病発症・難治化の機序解明」

- 5-43 植田 弘師 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)
「虚血脳を守るプロサイモシン α 」
- 5-44 松本 直通 (横浜市立大学大学院医学研究科)
「ATR-X 症候群のエピゲノム解析」
- 5-45 河田 光博 (京都府立医科大学大学院医学部医学科)
「臨界期ストレスの成体ホルモン応答に対する分子・構造・行動解析」
- 5-46 内匠 透 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科)
「ゲノム工学を用いて作製した自閉症マウスの解析による精神機能の分子的基盤研究」
- 5-47 糸川 昌成 (東京都精神医学総合研究所)
「カルボニルストレス性統合失調症の病態解明」
- 5-48 久永 真市 (首都大学東京理工学研究科)
「パーキンソン病モデル (MPP+誘導性) 神経細胞死は Cdk5 活性化サブユニット p35 の分解
が引き金となる」
- 5-49 原田 彰宏 (群馬大学生体調節研究所)
「シナプス小胞の生成、分布に関与する新規遺伝子の同定と疾患モデルの作製」

8月11日(火)

全体ワークショップ

会場：教育文化会館大ホール

10:00 ～ 16:40

懇親会

会場：ロイヤルホール（厚生年金会館）

18:30 ～ 20:30

※ 懇親会は事前申込みされた方のみ参加可能です

8月11日(火) 全体ワークショップ 第1部

“The Pathomechanisms of Brain Diseases: New Technologies and Approaches”

企画：第5領域

- 10:00-10:50 John R. Cirrito (Washington University School of Medicine, St Louis, USA)
“Synaptic-dependent regulation of amyloid-beta metabolism in vivo”
座長：岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科)
- 10:50-11:40 Brian J. Bacskai (Mass General Hospital / Harvard Medical School, USA)
“Calcium dysregulation in Alzheimer’s disease”
座長：柳澤 勝彦 (国立長寿医療センター研究所)
- 11:40-13:00 Lunch
- 13:00-13:50 Asa Abeliovich (Columbia University, New York, USA)
“Transcriptional and post-transcriptional gene regulation in neurodegeneration:
analysis of miRNA function”
座長：服部 信孝 (順天堂大学医学部)
- 13:50-14:40 Hiroshi Tsuda (Baylor College of Medicine, Houston, USA)
“Pathogenesis of amyotrophic lateral sclerosis, a fly’s view”
座長：三浦 正幸 (東京大学大学院薬学系研究科)
- 14:40-15:00 Break
- 15:00-15:50 Paul J. Muchowski (University of California, San Francisco, USA)
“Genetic dissection of amyloid toxicity in yeast and mice”
座長：貫名 信行 (独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター)
- 15:50-16:40 Craig M. Powell (UT Southwestern Medical Center, Dallas, USA)
“Genetic animal models of autism: molecular mechanism to potential therapies”
座長：西川 徹 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
- 18:30-20:30 懇親会

全体ワークショップ抄録

【企画 第5領域】

8月11日（火）

8月12日(水)

第1領域 班会議②

会場：清流

9:00 ～ 12:20

第3、4領域 合同班会議

会場：瑞雪

9:00 ～ 17:50

ポスターセッション

第3領域 会場：玉葉

第4領域 会場：黎明

19:00 ～ 21:30

8月12日(水) 午前、午後 合同班会議

第1領域班会議が午前に行われます。

第3、4領域合同班会議が、一つの会場で終日行われます。

第1領域 「統合脳」

司会：伊佐 正

- | | | |
|-------------|--|---|
| 09:00-09:15 | 星 英司 (玉川大学・脳科学研究所) | 「認知と運動の統合過程における前頭葉内ネットワークの解明」 |
| 09:15-09:30 | 鮫島 和行 (玉川大学・脳科学研究所) | 「大脳皮質-大脳基底核ループの認知的機能と意思決定」 |
| 09:30-09:45 | 磯田 昌岐 (理化学研究所・脳科学総合研究センター) | 「多様な利他行動発現を制御する神経科学的メカニズムの解明」 |
| 09:45-10:00 | 磯村 宜和 (理化学研究所・脳科学総合研究センター) | 「運動発現を担う大脳皮質・基底核ニューロンの機能のおよび形態学的同定」 |
| 10:00-10:15 | 松元 健二 (玉川大学・脳科学研究所) | 「ヒトにおける達成動機づけの脳内機構」 |
| 10:15-10:30 | 花川 隆 (国立精神・神経センター・神経研究所) | 「多元的イメージングによる系列操作の神経基盤の統合的解明」 |
| 10:30-10:45 | 休憩 | |
| 10:45-11:00 | 肥後 範行 (産業技術総合研究所・脳神経情報研究部門) | 「脳損傷後の機能回復：分子からシステムまでの統合的研究」 |
| 11:00-11:15 | 津田 一郎 (北海道大学・電子科学研究所・電子情報処理部門) | 「エピソード記憶形成に関する海馬の数理モデルと実験的検証」 |
| 11:15-11:30 | 筒井 健一郎 (東北大学・大学院生命科学研究所・生命機能科学専攻) | 「報酬と罰の統合的脳内表現に関する研究」 |
| 11:30-11:45 | 岡村 信行 (東北大学・大学院医学系研究科・機能薬理学分野) | 「PETを用いた分子イメージングによる神経変性疾患の病態解明」 |
| 11:45-12:00 | 銅谷 賢治 (沖縄科学技術研究基盤整備機構・大学院大学先行研究プロジェクト) | 「モデルフリー・モデルベースの行動選択と強化学習の脳機構」 |
| 12:00-12:15 | 丹治 順 (玉川大学・脳科学研究所) | 「生理学的、神経心理学的及び計算論的アプローチによる行動発現機構の統合的研究」 |
| 12:15-12:20 | 総評 丹治 順 代表 | |

第3, 4領域 「神経回路」「分子脳科学」

講演時間一人15分(口演8分、討議7分、時間厳守)

09:00-09:05 挨拶(狩野神経回路代表)

1, 神経発生 座長: 村上富士夫、田中英明

09:05-09:20 高橋 淑子 (分子脳科学、奈良先端科学技術大学院大学)

「神経系の成り立ちにおける細胞の移動と上皮化」

09:20-09:35 仲村 春和、原田 英斉(神経回路、東北大学)

「Pea3/Ets と Shh の相互作用による中脳背腹軸の決定」

09:35-09:50 村上 富士夫 (神経回路、大阪大学)

「脳の構築と神経回路形成における細胞移動の役割」

09:50-10:05 野田 亮 (分子脳科学、京都大学)

「神経細胞の運命決定および動態制御における細胞外マトリックス・リモデリングの役割」

10:05-10:20 田中 英明 (神経回路、熊本大学)

「軸索ガイダンス分子 draxin」

10:20-10:45 休憩

2, 軸索伸長とシナプス形成 座長: 森郁恵、貝淵弘三

10:45-11:00 福田 敦夫 (神経回路、浜松医科大学)

「インビボ胎仔大脳皮質におけるクロライドトランスポーターKCC2の翻訳後修飾」

11:00-11:15 白根 道子 (分子脳科学、九州大学)

「小胞輸送によるシナプスの制御機構」

11:15-11:30 尾藤 晴彦 (神経回路、東京大学)

「シナプスの機能的・形態的リモデリング機構の探索」

11:30-11:45 深澤 有吾 (分子脳科学、生理学研究所)

「神経細胞細胞膜上分子の動態制御機構の解析」

11:45-12:00 岩里 琢治 (神経回路、遺伝学研究所)

「遺伝子変異マウスを用いた体性感覚系神経回路発達の研究」

12:00-13:15 昼食(総括班会議)

3, 神経回路の成熟と機能発現 座長: 渡辺雅彦、平井宏和

13:15-13:30 古川 貴久 (分子脳科学、大阪バイオサイエンス研究所)

「網羅的遺伝子解析によって同定した網膜視細胞形成に関わる遺伝子群の解析」

- 13:30-13:45 平井 宏和 (神経回路、群馬大学)
「デルタ2グルタミン酸受容体のNTDを介する新しい活性化様式の解明」
- 13:45-14:00 深田 正紀 (分子脳科学、生理学研究所)
「PSD-95パルミトイル化酵素によるシナプス機能制御」
- 14:00-14:15 狩野 方伸 (神経回路、東京大学)
「発達期小脳における神経活動依存的なシナプス機能成熟」
- 14:15-14:30 渡辺 雅彦 (神経回路、北海道大学)
「競合的シナプス回路成熟の構造基盤と分子基盤」
- 14:30-14:45 野田 昌晴 (分子脳科学、基礎生物学研究所)
「Na_xに対する自己抗体の産生が本態性高Na血症の原因となる」
- 14:45-15:00 山森 哲雄 (分子脳科学、基礎生物学研究所)
「片眼遮蔽で出現する霊長類眼優位性カラムの新構造」
- 15:00-15:30 休憩 (フロア討議)

4. システム制御 座長：饗場篤、八木健

- 15:30-15:45 三品 昌美 (分子脳科学、東京大学)
「純系ゲノム背景における脳システム制御の分子解析」
- 15:45-16:00 饗場 篤 (分子脳科学、東京大学)
「時空間特異的遺伝子発現マウスを用いた脳のシステム制御の解析」
- 16:00-16:15 八木 健 (分子脳科学、大阪大学)
「CNR/プロトカドヘリン分子群を用いた脳システム形成と制御の解析」
- 16:15-16:30 喜田 聡 (分子脳科学、東京農業大学)
「転写因子CREB情報伝達系による記憶制御機構の解析」
- 16:30-16:45 森 寿 (分子脳科学、富山大学)
「情動学習制御の分子機構解析」
- 16:45-17:00 糸原 重美 (分子脳科学、理化学研究所)
「瞬目条件反射学習におけるアルファキメラシンの役割」
- 17:00-17:15 小田 洋一 (神経回路、名古屋大学)
「聴覚の獲得に伴う逃避運動の発達」
- 17:15-17:30 小坂 俊夫 (神経回路、九州大学)
「嗅覚一次中枢嗅球における情報処理の構造的基盤解明」
- 17:30-17:45 森 憲作 (神経回路、東京大学)
「大脳嗅皮質の匂い地図と嗅覚機能の発現」
- 17:45-17:50 結語 (三品分子脳科学代表)
- 18:00-19:00 夕食 (計画班会議)
- 19:00-21:00 ポスター発表

8月12日(水)夜 ポスターセッション 第1部

第3、4領域のポスター発表が併行して行われます。

第3領域 「神経回路機能」

A01 神経回路の形成

- 3-01 仲村 春和、原田 英斉(東北大・生命科学研究所)
「Pea3/Ets と Shh の相互作用による中脳背腹軸の決定」
- 3-02 尾藤 晴彦 (東京大・医学系研究所)
「シナプスの機能的・形態的リモデリング機構の探索」
- 3-03 五十嵐 道弘 (新潟大・歯学総合研究所)
「成長円錐のシナプス形成に関与する Ca^{2+} センサーの探索と機能解析」
- 3-04 白尾 智明 (群馬大・医学系研究所)
「新規蛋白スパイカーによるスパイン形成制御機構の解明」
- 3-05 佐藤 純 (金沢大・フロンティアサイエンス機構)
「ショウジョウバエ成虫脳の発生における同心円ゾーンと細胞移動による神経回路形成機構」
- 3-07 佐藤 勝重 (駒沢女子大・人間健康学部)
「脳幹神経回路網の機能形成過程と脱分極波による制御機構の光学的解析」
- 3-08 宮田 卓樹 (名古屋大・医学系研究所)
「遠隔投射型大脳皮質ニューロンの発生と回路形成」
- 3-09 山本 亘彦 (大阪大・生命機能研究所)
「大脳皮質における層構造特異的な神経回路形成の細胞分子機構」
- 3-10 匂坂 敏朗 (神戸大・医学系研究所)
「シグナルソームによる神経軸索の伸長機構」

A02 神経回路の機能的成熟

- 3-11 真鍋 俊也 (東京大・医科学研究所)
「持続したシナプス活動により誘導されるミトコンドリア依存性シナプス前短期可塑性」
- 3-12 狩野 方伸、三國 貴康、上坂直史 (東京大・医学系研究所)
「延髄小脳共培養における遺伝子導入法」
- 3-13 畠 義郎 (鳥取大・医学系研究所)
「視覚野神経回路の経験依存的形態変化」
- 3-14 中尾 光之 (東北大学・情報科学研究科)
「樹状突起活動電位の生理学的役割に関する研究」

- 3-15 安田 浩樹 (群馬大・医学系研究科)
「内因性カンナビノイドによる発達期シナプス除去」
- 3-16 河崎 洋志 (東京大・医学部附属病院)
「感覚神経系の形成タイミングの制御メカニズム」
- 3-17 関野 祐子 (東京大・医科学研究所)
「海馬シナプス伝達抑制機構の光学的測定法を用いた解析」
- 3-18 松崎 政紀 (東京大・医学系研究科)
「新規の光刺激法による非侵襲・生理的条件下における中枢神経シナプス長期可塑性の研究」
- 3-19 少作 隆子 (金沢大・保健学系)
「ムスカリン性アセチルコリン受容体を介するシグナルの多様性および相互依存性の解析」
- 3-20 小松 由起夫 (名古屋大・環境医学研究所)
「大脳皮質視覚野における長期増強の経験依存的機能発達に果たす役割」
- 3-21 持田 澄子 (東京医大・医学部)
「神経回路強化に関わるシナプス前終末カルシウムチャネルの機能解析」
- 3-22 加藤 総夫 (慈恵会医科大・総合医科学研究センター)
「慢性痛による扁桃体中心核シナプス可塑性固定化機構の解明」
- 3-23 宮田 麻理子 (東京女子医大・医)
「幻痛における視床シナプスのリモデリングとその臨界期」
- 3-24 小島 正己 (産業技術総合研究所)
「前駆体BDNFによる神経回路の形成と機能に対する負の制御とその生理的役割」

A03 神経回路の特異的機能発現

- 3-25 澁木 克栄 (新潟大・脳研)
「透明頭蓋マウス大脳皮質における高次感覚情報処理機構の研究」
- 3-26 山田 玲、大森 治紀 (京都大・医学研)
「聴覚同時検出におけるフィードフォワード抑制回路の機能的意義の解明」
- 3-27 齋藤 康彦 (群馬大・医学系研究科)
「水平眼球運動系の速度一位置変換に関わる神経積分機構の解明」
- 3-28 岡 良隆 (東京大・理学系研究科)
「ペプチドニューロンによる神経回路機能修飾の分子・細胞メカニズム」
- 3-29 喜多村 和郎 (東京大・医学系研究科)
「覚醒行動マウスにおける大脳皮質錐体細胞のホールセル記録と2光子イメージング」
- 3-30 姜 英男 (大阪大・歯学研究科)
「バレル野と味覚野における領野特異的機能発現に関与する局所回路」
- 3-31 山口 瞬 (神戸大・医学系研究科)
「機能的神経回路の可視化」
- 3-32 古江 秀昌 (生理研・神経シグナル)
「In vivo 脊髄抑制性シナプス入力 of 生理的役割とその可塑的变化の解析」

- 3-33 小西 史朗 (徳島文理大・香川薬学部)
「抑制性シナプスの長期増強を仲介する分子機構の解明」
- 3-34 児島 将康 (久留米大・分子生命科学研究所)
「視床下部摂食調節の神経回路解析」
- 3-35 窪田 芳之 (生理学研究所)
「大脳皮質局所神経回路の要素の形態特性とダイナミクス解析」
- 3-36 井上 剛 (岡山大・医歯薬学総合研究科)
「神経回路状態に依存したシナプス統合の多次元的解析」
- 3-37 一戸 紀孝 (弘前大・医学系研究科)
「新しく開発した生体内線維結合イメージングーカラムレベルの物体認知情報変換の研究」
- 3-38 岡本 仁 (理化学研究所・脳科学総合研究センター)
「トランスジェニック技術を使ったゼブラフィッシュ神経回路網の機能解析」

班 友

- 3-39 打田 武史、福田 諭、神谷 温之 (北海道大・医学研究科)
「海馬 CA3 野シナプス伝達の異シナプス間相互作用」
- 3-40 Takeshi Imai, Takahiro Yamazaki, Hitoshi Sakano
(University of Tokyo, Graduate School of Science)
“Pre-Target Axon Sorting Establishes the Neural Map Topography”

第 4 領域 「分子脳科学」

- 4-01 大隅 典子 (東北大学・大学院医学系研究科)
「脳の発生発達過程における神経幹細胞の増殖と分化を制御する分子メカニズムの解明」
- 4-02 榎 正幸 (筑波大学・大学院人間総合科学研究科)
「神経回路形成の動態を制御する新規細胞間シグナルの解析」
- 4-03 能瀬 聡直 (東京大学・大学院新領域創成科学研究科)
「特異的シナプス形成過程に関与する分子の同定と動態観察」
- 4-04 上村 匡 (京都大学・大学院生命科学研究科)
「樹状突起のパターン形成：分岐の複雑度や受容野のサイズを調節・維持する分子機構」
- 4-05 岡野 栄之 (慶應義塾大学・医学部)
「神経分化と可塑性の転写後レベルにおける調節メカニズム」
- 4-06 貝淵 弘三 (名古屋大学・大学院医学系研究科)
「神経細胞の極性形成機構の解明」
- 4-07 森 郁恵 (名古屋大学・大学院理学研究科)
「線虫 *C. elegans* の感覚行動から探る高次神経機能の分子機構」

- 4-08 影山 龍一郎 (京都大学・ウイルス研究所)
「2時間を刻む生物時計による神経分化制御」
- 4-09 守屋 孝洋 (東北大学・大学院薬学研究科)
「ニューロン新生を調節するプロスタグランジン2の新規標的タンパク質の解析」
- 4-10 小椋 利彦 (東北大学・加齢医学研究所)
「新規遺伝子の機能解析から探る脳構築」
- 4-11 山口 正洋 (東京大学・大学院医学系研究科)
「成体嗅球の新生神経細胞の生死決定時間を規定する分子機構の解析」
- 4-12 千原 崇裕 (東京大学・大学院薬学系研究科)
「脳内における樹状突起ガイダンスの分子機構」
- 4-13 平林 祐介 (東京大学・分子細胞生物学研究所)
「大脳皮質神経系前駆細胞の発生時期依存的なニューロンタイプの転換機構」
- 4-14 田中 光一 (東京医科歯科大学・大学院疾患生命科学部)
「抑制性神経前駆細胞の実体解明と神経分化におけるノッチシグナルの役割」
- 4-15 加藤 裕教 (京都大学・大学院生命科学部)
「神経軸索ガイダンス分子、セマフォリンの機能の研究」
- 4-16 平野 丈夫 (京都大学・大学院理学研究科)
「グルタミン酸受容体デルタ2によるシナプス形成誘導」
- 4-17 石橋 誠 (京都大学・大学院医学研究科)
「モルフォゲンの濃度勾配ロバストネス保証および分化運命決定における閾値の分子機構」
- 4-18 中島 欽一 (奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科)
「発生段階依存的な神経幹細胞の性質変換を誘導する分子メカニズムの解明」
- 4-19 稲垣 直之 (奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科)
「神経細胞が過剰な軸索の形成を抑制する分子機構の解析」
- 4-20 太田 訓正 (熊本大学・大学院医学薬学研究部)
「T s u k u s h iによる神経幹細胞の未分化性維持機構」
- 4-21 田賀 哲也 (熊本大学・発生医学研究センター)
「胎生期中枢神経系構築における神経幹細胞運命決定機構の分子基盤解明に関する研究」
- 4-22 澤本 和延 (名古屋市立大学・大学院医学研究科)
「成体マウス・小型魚類脳における新生神経細胞移動の分子機構」
- 4-23 仲嶋 一範 (慶應義塾大学・医学部)
「大脳皮質神経細胞の配置制御」
- 4-24 榎本 和生 (国立遺伝学研究所・新分野創造センター)
「樹状突起間の反発作用に基づく受容領域の自己組織化に関する研究」
- 4-25 吉原 良浩 (理化学研究所・脳科学総合研究センター)
「樹状突起フィロポディアを構成する機能分子複合体の統合的解明」
- 4-26 星野 幹雄 (国立精神・神経センター・神経研究所)
「変異マウスと電気穿孔法による神経細胞のサブタイプ決定と移動の分子機構の研究」

- 4-27 大西 浩史 (群馬大学・生体調節研究所)
「チロシンリン酸化シグナルによる脳のストレス応答メカニズムの解明」
- 4-28 山下 俊英 (大阪大学・大学院医学系研究科)
「神経細胞死と軸索再生のシグナルのクロストーク」
- 4-29 竹本一木村さやか (東京大学・大学院医学系研究科)
「アクチン動態を制御するCaMKK-CaMKIカスケードの神経機能解明」
- 4-30 高森 茂雄 (東京医科歯科大学・脳統合機能研究センター)
「エンドサイトーシス機構の分子進化的解析」
- 4-31 大塚 稔久 (富山大学・医学薬学研究部)
「ELKS/CASTファミリーによるシナプス伝達制御機構の分子メカニズムの解析」
- 4-32 清中 茂樹 (京都大学・大学院工学研究科)
「シナプス前終末におけるカルシウムチャンネル複合体の集積・制御機構の分子基盤」
- 4-33 木下 専 (京都大学・大学院医学研究科)
「プルキンエ細胞およびバグマングリア特異的Sept7欠損マウスの解析」
- 4-34 田端 俊英 (富山大学・大学院理工学研究部)
「GPCRヘテロ複合体による中枢シナプス可塑性の調整」
- 4-35 中村 俊一 (神戸大学・大学院医学研究科)
「スフィンゴ脂質による神経伝達物質放出機構の解析」
- 4-36 森 望 (長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科)
「ホスホチロシンシグナルアダプターからみる海馬神経シナプス可塑性制御の分子基盤」
- 4-37 木住野 達也 (長崎大学・先導生命科学研究支援センター)
「ヒト、マウスにおける神経細胞特異的インプリンティング遺伝子の探索」
- 4-38 柚崎 通介 (慶應義塾大学・医学部)
「成熟脳におけるシナプス可塑性機構の解析と制御—2つの新しいツールを用いて」
- 4-39 伊藤 誠二 (関西医科大学・医学部)
「神経可塑性に伴うNMDA受容体複合体の再編成と活性化に関与する機能分子の探索」
- 4-40 椎名 伸之 (自然科学研究機構・基礎生物学研究所)
「局所的翻訳調節によるシナプス形成・可塑性制御メカニズムの解析」
- 4-41 和多 和宏 (北海道大学・大学院先端生命科学研究院)
「発声学習臨界期制御に関わる遺伝子群の脳内機能」
- 4-42 小川 園子 (筑波大学・人間総合科学研究科)
「エストロゲン受容体を介した行動調節の脳内分子機構の解析」
- 4-43 清水 貴美子 (東京大学・大学院理学系研究科)
「K-Ras制御因子SCOPを中心にみた記憶形成のサーカディアン制御機構」
- 4-44 吉村 由美子 (自然科学研究機構・生理学研究所)
「大脳皮質の経験依存的発達におけるNR2B-NMDA受容体の役割」
- 4-45 杉本 幸彦 (京都大学・大学院薬学研究科)
「プロスタノイドによる中枢シナプスネットワーク調節」

- 4-46 鍋島 陽一（京都大学・大学院医学研究科）
「小脳顆粒細胞特異的遺伝子機能改変マウスを用いた小脳機能制御システムの研究」
- 4-47 本間 光一（帝京大学・薬学部）
「大脳領野への神経細胞選択的遺伝子導入法を利用した鳥類刻印付けの分子機構の解明」
- 4-48 矢尾 育子（株式会社三菱化学生命科学研究所）
「SCRAPPERを介した神経伝達制御機構の解明」

「統合脳」5領域合同集会および領域班会議の実施 ならびに研究成果報告に関するガイドライン

文部科学省特定領域研究「統合脳」5領域では、合同で開催される夏のワークショップ・冬のシンポジウム等の集会、および領域班会議の実施にあたり、基本的なガイドラインを以下のように策定する。

1. 特定領域研究の趣旨は、「研究交流と組織的努力による統合的脳研究の推進」であり、特に「統合脳」5領域においては、それぞれの領域内はもとより、異なる領域の研究者との交流を積極的に推進し、研究の新たな展開を図ることが期待されている。したがって、「統合脳」の合同集会では、次元の異なる分野で進捗しつつある脳科学研究の交流を図り、多面的に脳機能の理解を進める趣旨に沿った集会活動であることを認識し参画することが望まれる。
2. 各領域における領域班会議では、研究成果に関する活発な議論と情報交換を重視する。研究発表はその趣旨に沿って行われるものであり、領域全体の研究推進という視点から、領域班員に解かりやすく、有益な発表が求められる。公表済みのデータのみでなく、未発表のデータや新たな考えを自由に発表できる環境が班会議に於いて重要であり、発表にあたっては、研究知見やデータの秘匿は行わないことを共通認識とする。具体的には、話題の核心となる分子名、方法、理論、アイデアなどを伏せて発表するようなことはしない。反面、班会議における研究発表は未公開の研究内容を含むので、その内容については、守秘義務を徹底する。
3. 冬のシンポジウムは公開であるが、夏のワークショップ、統合（領域横断的）シンポジウム、領域班会議（口頭発表およびポスター発表）は原則的に非公開とする。写真撮影やビデオ撮影については、冬のシンポジウムを含む、すべての会合、会議で禁止する。ただし、広報活動などの目的で撮影を行う必要がある場合には、領域代表者の承認を得た上で、本ガイドラインの趣旨を逸脱しない範囲内でこれを行うことができるものとする。
4. 領域班会議における守秘義務は極めて重要であり、各領域においてはその領域の事情を考慮しつつ、守秘義務徹底のために方策を講ずることとする。
5. 領域班会議の抄録は、「統合脳」領域ホームページに掲載するが、その抄録は会議終了後、速やかに削除する。他方、研究成果報告書は公開するので、その記載内容に関して公開不可能な研究内容については、記載しないことも可能であるが、その際に記載事項と非記載事項の選択および研究成果の説明責任等の具体的処理については、研究者が個人の責任において行うこととする。
6. なお、以上の申し合わせは法的規制力を持つものではないため、特許申請などに関わる情報の取り扱いについては、発表者各自が責任を負うものとする。

【参考1—班会議抄録に掲載する文例】「本領域班会議において発表および議論される内容には、知的財産権等に関する秘密情報が含まれているので、参加者は、本領域班会議における秘密情報が漏洩されることのないよう厳重に管理すること。」

【参考2—署名を求める際の文例】「私は、本領域班会議において発表および議論される内容を他に漏洩することのないよう厳重に管理するとともに、秘密情報を一切の第三者に開示、漏洩いたしません。」